



第36号
令和6年9月1日
発行 聖マリアの園
〒853-0052
五島市松山町706-3
(0959)72-6129

特別養護老人ホーム聖マリアの園 施設長 村上順子

暦の上では九月を迎えましたが、まだまだ寝苦しい日々が続いています。

今年はお正月早々地震に見舞われ、次から次へと災害等がこの日本を覆いかぶせたような天候で、気が休まれるときがない日々でした。また、類を見ないほどの暑さが40度近くまで上がった地域は大変な苦難でした。ここ五島は一ヶ月近く雨が降らず、降ったとしても片ぶり、降らない地域は地面はカラカラの状態、草木は、熱風で枯れたように赤ちやけています。朝夕水をやっても、焼け石に水とはよく言ったもので、何の足しにもなっていない気がしています。そんな中、ここ聖マリアの園ではコロナ感染が二回ほど拡大しました。一回目は七月に拡大し、一階の利用者、職員が罹り、二回目は八月のお盆中で、利用者、職員に拡大してしまいました。ある職員が保健所に報告に出かけた際、一言「もう慣れたものでしょう。」との声かけがあったそうです。慣れるなれないは別問題で少々気恥しい気持ちで書類提出をしに行ったことでしょうか。何気ない言葉のやり取りでも相手を思いやる気持ちが少しでもほしいものだと、つくづく思った次第です。私たちの何気ない日常生活においてもそんなことは多々あることでしょうか。相手のいる生活なので、一言一言の影響が大きいことに心を留めていきたいものです。

ところで、今年はオリンピックの年でした。フランスのパリで開催されたオリンピックに出場された選手の皆さん、関係者の皆様方大変お疲れさまでした。メダルに届いた方、あと一歩といった方々の健闘ぶりをテレビで観戦していましたが、表情や態度が非常に印象的でした。柔道の選手で金メダルを取った永瀬選手のことが報道されていました。それは金メダルをとっても有頂天になることなく、審判が判断するまでガッツポーズや、パホームンスは控え、戦った相手のことを思う気持ちがとてもよかったと褒められていたのが印象的でした。喜びの表現も一人ひとり異なりますが、まず相手を思いやる心を持ちたいものです。

年々天候の落差が激しくなっています。関東から西側は晴天続きで、うだる様な暑さです。また、台風に関しても八月十七日付けの長崎新聞の「水や空」の欄を借りると今年の台風は、九州や四国、紀伊半島などの「台風銀座」からは離れたコースを進み、その地方に住んでいる方々は大変な思いをされたことでしょうか。台風銀座コースに住む私たちは、一応それなりの迎える術は持っているものの、いざ台風が来た、大雨が降ったとなったら大変な思いをします。今年は東北地方を狙って三個の台風がやってきて、大変だったと思います。日本は細長い国なので北と南の落差は大きいものです。しかし四季折々の草花、その地方独特の生き方でそれぞれをいかに生きるか、与えられた宿命かもしれませぬ。気象の「新傾向」に立ち向かう知恵を学びたいものです。

